

「仙台市×東北大学スーパーシティ構想推進協議会」改称について

名称検討の経緯（R5年度）

- 4月12日 第2回総会において、協議会の枠組み検討（協議会名、戦略名）の方針決定

《第2回総会資料一部抜粋》

- ・内閣府は現在、既に選定されたスーパーシティ指定区域の対応を優先しており、次期指定には大幅な時間を要する模様。
- ・こうした状況を踏まえ、スーパーシティの次期指定も見据えながら、国のスケジュールに捉われることなく、仙台の未来を描いた上で、自律的にチャレンジな取り組みを進めてまいりたい。
- ・今後は、より柔軟に取り組めるよう、協議会の枠組みを今後検討してはどうか（協議会名、戦略名含む）。

※スーパーシティ構想からの発展例：国へ提案した「北九州市・東田 Super City for SDGs構想」を、参画する企業や研究機関等による実証・実装事業等を推進し、加速していくため、新たに『東田・未来都市プロジェクト～The Higashida Future City Project～』として始動

- 7～9月 事務局（仙台市・東北大・KPMG）における名称案出し、
合同分科会（9月12日開催）等において参画事業者から意見を募集
⇒ 意見等踏まえ、「仙台市×東北大学スマートフロンティア協議会」とする方向へ
- 10月19日 幹事会開催
- 10月23日 総会（書面開催）名称変更・規約改正・戦略ver2.0改定を決定
※16日案内、20日意見〆

- 10月31日 首都圏プロモーション「仙台・未来創造フォーラム」@八芳園 ブースでお披露目予定
- 11月1日 仙台市主催「DX GATEWAY」@国際センターでもお披露目予定

仙台市×東北大学スマートフロンティア協議会

－仙台市×東北大学スーパーシティ構想推進協議会からの改称について－

仙台市は、内閣府スーパーシティ型国家戦略特別区域の指定に向けて、2021年3月「仙台市×東北大学スーパーシティ構想準備検討会」を発足し2022年1月には「仙台市×東北大学スーパーシティ構想推進協議会」を設立約60社の事業者に参加をいただき、皆様とチャレンジを重ねてきました。

発足から2年7か月、国ではデジタル庁や「デジタル田園都市国家構想」が発足するなど、様相も変化しています。今後、仙台市がさらなる地域課題解決に向け、アジャイルな開発の継続、市民ニーズに即した最先端サービスの実現を進めるため、協議会名を改称し、バージョンアップを図ることとしました。

本協議会でのプロジェクトでは、スーパーシティ・スマートシティの実現を目指して
スマートシティとして、仙台市と東北大学と参画事業者が連携し、
データ連携を前提とした先端的なサービスの開発、規制改革の促進をすることで、
多くのジャンルでスマートシティのフロンティア（最先端）を目指していきます。

例 デジタル田園都市国家構想、カーボンニュートラル、スーパーシティ指定区域 など

郡市長からメッセージ

これまで築いてきた「仙台市×東北大学スーパーシティ構想」を素地にしながら、
市民のwell-being向上に資する多様なサービス、さらに市民・若者がチャレンジしやすい土壌を創造していきます。
チャレンジングな取組に果敢に挑み、積み重ね
仙台の未来を切り拓くフロンティアとして、ともに本協議会を活発化させていきましょう。